

対策の現状は

市長／効果的な対策は見いだされていません



蔵元 慎一 議員

蔵元 発生状況はどうなっているか。

市長 平成24年11月現在で、発生地区85地区、発生面積が7・142ヘクタールと推定されている。
蔵元 生態について十分に把握しているか。また、駆除を含め、対策について県との協議をどのように進めているか。



民家に設置されているヤスデ返し

市長 県ヤンバルトサカ

ヤスデ対策検討委員会において、発生状況及び駆除対策、不妊化手法の解明調査等の報告及び駆除のための補助事業の要望など行っているが、これといった効果的な対策は見いだされていない。被害の多い近隣自治体とも協議して市長会などを通じて県に要望していく。

麓川のリバーフロント整備事業計画は

市長／一部工事を進める予定

蔵元 休止しているリバーフロント整備事業を今後どのように進める考えか。
市長 今年度委託費が予算計上され、用地測量や護岸設計を実施している。麓公園から須田木橋上流までの約150mの護岸工事と遊歩道を計画しており、平成25年度は用地買収と一部護岸工事を進める予定である。

閉会中の所管事務調査報告

共生・協働のまちづくりについて

◆総務常任委員会◆

委員会は、「共生・協働のまちづくり」について、本市の状況を踏まえ日置市で調査を行いました。

本市では、「協働と自立による住民主役の個性的なまちづくり」を総合計画の政策のひとつに設定し、市民協働のまちづくりに取り組んでいる。

また、*コミュニティプラットフォーラムの構築が課題であるが、顕娃地域の公民館活動がその完成に近い組織形態と考えられるとのことであった。

日置市は、市内26カ所の地区公民館を、社会教育法で規定する公民館ではなく、地方自治法で規定する公の施設として条例化し、地域づくりのための自治活動の拠点としての役割を持たせ、共生・協働の核と位置付けている。

地区公民館ごとに地域振興計画を策定しており、市としても、助言や協力のために、市長を推進本部長として、全職員が地区公民館及び178自治会の担当職員として割り当てられている。

※コミュニティプラットフォーラムとは

市町村の区域を、小学校区などの一定の地域に分け、地域を代表するような新たな組織に財源や権限を委ねて自主的な活動を推進していく住民自治の仕組みです。

提言

財政が硬直化することで、地域を活性化させていくためには、住民同士が支え合い、市民と市が協働するまちづくりを進める必要があることから、地区（校区）公民館の単位を基本に、各地域の実情に即した範囲で、顕娃地域の地区公民館の取り組みを参考としながら、共生・協働の組織づくりと、コミュニティプラットフォーラムの構築を



高齢者福祉施設の整備と今後の対応策について

◆文教厚生常任委員会◆

委員会は、高齢者福祉の整備状況と今後の対応策について、調査しました。

本市には、直営で運営されている介護予防居宅介護支援事業所（通称地域包括支援センター）3カ所以外に、地域密着型サービス事業所及び介護保険施設などが21カ所設

置されており、地域密着型サービス事業所（グループホーム）の待機者は74名となっている。施設整備については、

本年度から26年度までの3カ年を計画期間とする市老人福祉計画及び第5期介護保険事業計画において、認知症対応型共同生活介護事業所（グルー

プホーム）2カ所と地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業所（29人以下特別養護老人ホーム）1カ所を、本年度中に事業者の公募を行い、26年4月から開所予定である。

今後も前期高齢者が増加傾向にあることや、高齢者世帯の割合及び認知症の増加など介護を必要とする高齢者が大幅に増加していくことが想定され、その対策が求められる。

提言

●施設の介護職員を確保するため、支援策を検討すること。

●家族介護の負担軽減の支援策と認知症を地域で見守る体制づくりを構築すること。

●長期的な展望に立った施設整備を行うこと。



介護施設の様子

市道の整備と今後の対応策について

◆産業建設常任委員会◆

委員会は、市道の整備と今後の対応策について、調査しました。

現在の市道整備率は総路線数1584路線に対し、改良率62・9%、舗装率73%となっており、市道等の整備については、合併前からの継続路線や緊急度の高い路線から優先的に整備している。

また委員会は、市道整備計画に組み込まれていない74路線のうち、幹線市道17路線について現地調査をし、国道、県道及び南薩縦貫道を骨格とし、これと地域間を結ぶアクセス道としての幹線市道の整備が重要と位置づけました。

橋梁については、定期点検を実施し、健全性、安全性を確保。22年度から23年度にかけて全309橋梁の長寿命化修繕計画を策定しており、25年度から補助事業を活用して3橋梁について実設計委託を行い、26年度から架け替え、補修、補強等の工事に着手予定である。

提言

●地域の実情にあつた整備計画とすること。

●補助事業の採択に向け取り組みを強化すること。

●仮設道等の設置は極力避け、住民の理解を得て事業費縮小を図ること。

●道路改良は、歩行者の安全のため可能な限り歩道を確保すること。
●国道などと地域間を結ぶ幹線道路網を重点的に推進すること。



整備が待たれる橋梁